

長崎県知事賞(最優秀賞)

体験してわかること

雲仙市立鶴田小学校 六年
横田 桃花

五年生の最後に国語の授業で点字を習いました。前から少し気になっていました。点字は、どんな所に使われているのだろうか、だれが使っているのだろうか、とみぢかにあるのかと思いタブレットで調べました。

点字は、目が見えない人が指先でブツブツをさわって読む文字のことで「あ」から「ん」まで六点を使って作られていました。私は「あ」から「く」まで見ずに書けるようになりましたが八個しかおぼえませんでした。点字の表を見ながら手紙を書いてみたいです。私には、目が見えにくいじいちゃんがありますが、点字までは必要ではありません。じいちゃんは、白いぼうを持っています。白じょうというそうです。お母さんが教えてくれました。「持ち運ぶ時はおりたためて、

使う時はパキンパキンって伸ばして使うとよ。」と使い方も教えてくれました。ふだんは、ばあちゃんと出かけるので、ばあちゃんがじいちゃんの目になっていきます。

お母さんの実家に帰る時は、じいちゃんの家をまわりをさんぽに行きます。ばあちゃんと二人では、行かないからまごの私がいっしょに行くといつて来るので、ばあちゃんが「やっぱり桃花が言わんばこんね。」と言ってくれます。私も運動が大きらいですが、じいちゃんとおしゃべりしたり、遊びながらさんぽするのは大好きです。でも、夏は暑くてさんぽに行けなくてざんねんです。そのかわり買い物につれて行くことにしています。お店はすずしいので歩きやすいです。

ごはんをいっしょに食べる時は、お母さんとかばあちゃんがじいちゃんの皿におかずをのせてあげていました。それを見て、私もおかずをのせてあげたら、じいちゃんが「おいしか。」と笑顔で食べてくれました。うれしかったです。

最近、SNSで手話の動画をよく見ます。小学校で時々歌う「にじ」という歌が手話で流れます。それが大好きです。曲が流れると手が動きます。単語でも、おはよう、笑顔、ありがとうは、人に伝える言葉なのでおぼえました。笑顔は私が小学校一年生から習っている琉球國祭り太鼓のイベント中、私が笑顔でおどっていない時に、お母さんが客席から送るサインです。

おどっている曲の中にビギンさんの海の声という曲があります。最近手話になっていきます。私はこの曲が大好きで、練習中、「何の曲の練習する。」と聞かれた時は、海の声と希望します。おどる曲の中でも一つ手話が入っているのが「笑顔のまんま」です。この曲で手話の部分は「ぼくが笑いを君にあげるから、君の笑顔をぼくにください。」という部分です。手話が決まるとうれしくなります。

六年生の一学期、近くの老人ホームに介護の勉強をしに行きました。車イス体験とおふろ体験をして、お

ふろに機械で入れていたことにビックリしました。機械にセットしたら、湯船に入れてくれてすごいと思いました。家に帰ってお母さんに話したら、お母さんの病院にもほしいと言っていました。お母さんは、おふろの介助の時、おじいちゃん、おばあちゃんたちをかかえてうっしているそうで、入れ終わるころにはへトへトになるそうです。

お母さんは、とても大変な仕事をしていることを知りました。お母さんお仕事頑張っね。

長崎県教育委員会教育長賞

私ができること

雲仙市立鶴田小学校 五年
横田 恋花

私のお父さんは、二年前の冬、心きんこうそくになりました。十二月十日は、私が小学一年生から続けている琉球國祭り太鼓の、年に一度の両親への発表会でした。チームごとに曲を決めておどったり、大人の人達と一緒におどったりする発表会の朝、お父さんは胃が何日前からいたかったみたいでした。お母さんが「昼から発表会やけん、間にあうように帰って来てよ。」と言い、お父さんと別れて発表会に行きました。お父さんは、私がおどっている時、ニコニコして、私やお姉ちゃん達をビデオでうつしていました。家に帰って来てからもいつも通りのお父さんでした。ねる時も私は、二段ベットの上からお父さんお母さんを見てねました。

夜中、トイレに起きると、両親は布団にいませんでした。トイレに行って、電気がついているテレビの部屋に両親がいました。お父さんがきつそうにイスに座っていて、お母さんは、心配そうにお父さんを見ていました。お母さんに「れん、夜中やけん、ねとって。」と言われて心配でしたが布団に行っていました。朝、起きたらばあちゃんが家に来ていました。「お父さんは、じいちゃんと同じ病気で手術したとよ。」って話してくれました。こわくて、学校に行きなくなかったです。学校が終わって家に帰るとお母さんが、お父さんがねている写真を見せてくれて安心しました。一週間て二回の手術して起き上がれるようになったけど、四日ぐらいベットにしばらくいらしく、足がいた

くて、立てなくなっていました。お母さんは、休みの日や、夜きんに行く前と夜きん後にお父さんの病院に行き、私さがさみしながらのように写真をとって来て、話をしてくれていました。お母さんが足のマッサージをしたり、足をゆかにつけて足首を動かしたりする動画もとって来たりして、私も、お父さんへ足を動かす練習する動画をとって元氣を送りました。お母さんが病院に行けない時は、お父さんが何の練習をしたか教えてくれました。練習をみんなでしたので、立てる様になり、車イスに乗れて、車イスをおす姿をかんご師さんが動画にとってくれました。

二週間くらいで家に一回帰って来ました。数日後、お父さんは足がいたくなり、なやんでいました。私は「れんかが、足をマッサージしてあげる。」と言ってもんであげました。お母さんがしてあげているようにしてあげたら、お父さんが「少しよくなったよ。」って言うてくれました。病院の中ではしてあげられなかったけど、これからは、いっぱいお父さんのことを助けるけんね。しょうらい、体がうごけない人を介助する人になれたらいいなと思います。